

交通系ICカードの導入について

■ 要旨

昨今、MaaSを始めとした交通事業におけるデジタル化が急速に進む中、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う非接触方式の決済が拡大し、お客様からICカードの導入を求める声が継続的に寄せられています。愛知県東三河地域の交通を担うバス会社として、交通系ICカード対応は地域価値の向上に繋がる他、新しい生活様式への変化に対応していく事が必要であり、名古屋鉄道のグループメリットを生かした導入コストの抑制が期待できる今回のタイミングで交通系ICカードを導入したい。

■ 全国相互利用交通系ICカード「manaca」

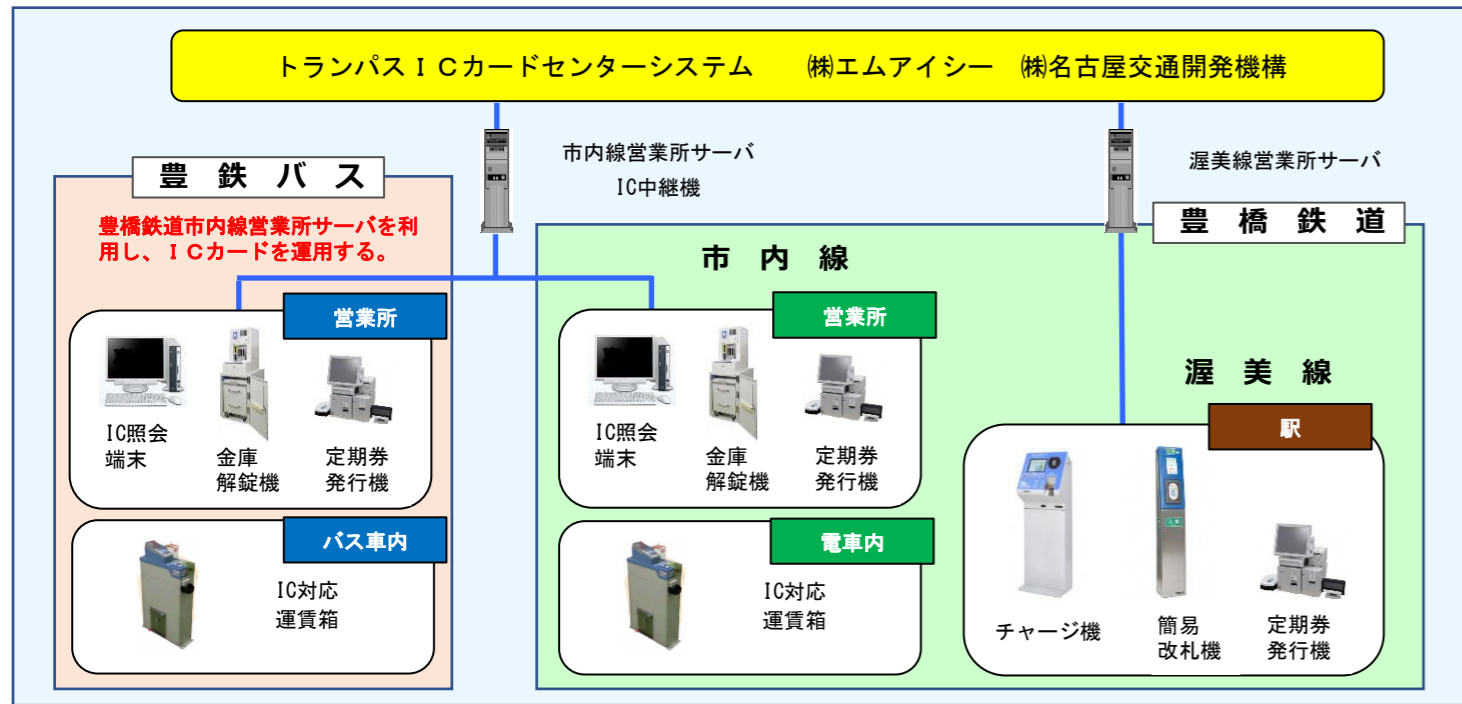
㈱エムアイシー（名古屋鉄道グループ）と㈱名古屋交通開発機構（名古屋市出資の第三セクター）が発行するサイバネ規格のICカード乗車券。

現在、名古屋鉄道、名鉄バス、名古屋市交通局、名古屋ガイドウェイバス、愛知高速交通、豊橋鉄道が参画している。



■ ICカード「manaca」導入概要

豊橋鉄道の営業所扱いとして参画し、導入コストの削減を図る



■ サービス開始の目的・効果

目的	効果
□利用者に対する利便性・安全性の向上	・ICカード1枚で移動できる東三河の交通網を構築 ・乗降時間の短縮に伴う遅延削減、ゆとりある運行による事故防止
□沿線市町との連携	・高齢者及び障害者等福祉政策（交通助成）への活用 ・コミュニティバスでの導入
□観光など一時利用（定期外収入）の獲得	・観光やイベントなどでの利便性向上による地域の活性化
□運行ダイヤの改善	・ODデータを活用した運行ダイヤの分析
□新しい生活様式への対応	・非接触型決済の促進

■ 投資概要

○初期投資 (百万円)

配備	金額	備考
車載器関係	281	運賃箱、車載IC機器、運賃表示器等
地上機関係	233	定期券発行機、IC中継機サーバ負担金等
総合	8	総合試験費等

合計 522百万円

○ランニングコスト (年間) (千円)

対象	金額	備考
manacaセンターシステム利用料	2,300	トランパスIC協議会
社局サーバ利用料	3,000	㈱エムアイシー

合計 5,300千円

■ 補助金要請

補助スキーム	補助割合
ポストコロナを見据えた受入環境整備補助金（国）	補助対象経費の1/3
バス事業者交通系ICカードシステム整備費補助金（愛知県）	補助対象経費の1/6
東三河地域市町独自施策	補助対象経費の1/6

■ 導入範囲

- ・対象車両 一般路線車両全車両（※一部高速車両を除く） 103台
- ・対象営業所 全営業所（豊橋、新城、渥美）
- ・IC定期券販売窓口 10箇所程度

■ 導入路線

- ・高速路線の一部を除く全路線を対象とする
- ※豊川市コミバス（ゆうあいの里八幡線、一宮線）、新城Sバス（作手線、中宇利線、吉川市川線）、おでかけ北設（津具線）含む

■ 搭載券種概要

- ・SF（ストアードフェア）機能
現金などによりマナカ内にチャージ（入金）した乗車運賃等に利用できる金額のこと
- ・定期乗車券機能

■ スケジュール（予定）

2023年6月頃	機器開発・総合試験実施
2023年秋以降	バス機器への取付工事開始
2025年3月	サービス開始

